

## 火の祭

匠 瑗 探 訪

158

今月25日夜、本町通り商店街で開催される市場まつりと同時に、八重垣神社境内で「駒まね」が行われます。

この行事は、1761（宝暦11）年6月12日の晩「夕方本町堂前において法楽（神仏の行事）のこと」「火の祭」と見徳寺の記録に見られ、250年以上前から続くことが知られます。



毎年7月25日に行われる「駒まね」

現在、本町通りにあるポケットパークの隣りに石造りの薬師如来がまつられています。12日が薬師の縁日で「火の祭」はこれに関連します。以前この場所に「医王寺」という小さなお堂があり、その前で現在見られる若竹を燃やす行事が行われていました。

当時の本町は、町場化していたものの農業が主

体の集落で、竹を燃やして出る煙を雲に見立てる「雨乞い」の行事と考えられます。

現在はこの行事を「駒真似」「駒まね」などと言っていますが、250年以上前の記録に見られる「火の祭」と長く呼ばれてきました。

記録の残る1934（昭和9）年の盆踊り唄にも「来たか駒がね、若竹立ててよ、今年や世直し祝え火祭り」とあり「駒がね」「火祭り」と呼ばれていたことが知られます。

1955年ごろ地元で作成された資料に「駒真似」とあり、行事の形はさほど変わらぬものの、祈願の内容など時代とともに変化しています。

なお、古く使われていた「駒がね」は何に由来するのか、謎はまだ残されています。

（市文化財審議会委員・

依知川雅一）

問 秘書課広報聴班

☎ 73・0080